

### Ⅲ. 分担研究報告 7

厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）  
分担研究令和2～4年度分担報告書

サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築に関する研究  
放射線診断学的見地からの検討

研究分担者 田嶋 強

研究要旨：本研究の目的はサリドマイド胎芽症（サ症）患者における健康上の問題点を放射線診断学的見地から明らかにすることである。令和2～4年度に人間ドック健診を受診したサ症患者を対象として、CT、MRIを用いて全身の画像所見を解析し、身体内部異常の放射線学的所見と頻度について報告する。人間ドック健診により、サ症に合併する異常のみならず、加齢に伴う異常を早期に検出することができたことから、サ症患者の健康維持に、人間ドック健診の継続が有用であると考えられた。

#### A. 研究目的

本研究の目的はサリドマイド胎芽症患者における健康上の問題点を放射線診断学的見地から明らかにすることである。これまで、CT、MRI、一般撮影を用いて全身の画像所見を解析し、身体内部異常の放射線学的所見と頻度について考察を加えて報告してきた。今年度は、健康診断を継続することにより、CTに関する身体内部異常の評価を継続実施することを目的とする。

#### B. 研究方法

・令和2～4年度にサ症患者の健診を実施した。

令和3年2月から令和5年2月までに10名が健診を受けた。受診者のプロフィールを表1に示す。

・実施された健診における放射線関連検査の内容はCTである。

・実施されたCT検査の部位は、頭部、頸

部・椎体・四肢・筋、体幹部、内臓脂肪測定であった。

#### C. 研究結果

以下に結果を要約する。各検査の具体的な結果は以下のごとくである。

##### 1) 側頭骨 CT 〈受検者 9 名〉

1 例に複数の異常が見られた

（左側耳小骨形成不全、左側外耳道閉鎖、左側慢性中耳炎、両側耳介形成異常）。

##### 2) 頭部 CT 〈受検者 9 名〉

全例で異常なし

##### 3) 脊椎 CT 〈受検者 9 名〉

以下の異常を認めた

変形性脊椎症 6 名

腰椎椎弓形成不全 1 名

二分脊椎 2名  
塊椎 2名

腎腫瘍 1名  
子宮筋腫 2名  
皮下脂肪腫 1名

表 1. 受診者のプロフィール

症例番号	性別	年齢(歳)	障害の内訳
1	M	60	聴力障害
2	F	59	両側上肢 低形成
3	F	59	両側上肢 低形成
4	F	60	両側上肢 低形成
5	M	61	両側上肢 低形成
6	F	60	両側上肢 低形成 (左優位)
7	F	60	両側上肢 低形成
8	M	60	両側上肢 低形成
9	M	62	両側上肢 低形成 (左優位)

4) 体幹部 CT (受検者 9 名)

以下の異常を認めた (重複あり)

後鼻腔狭小化 1名  
甲状腺結節 1名  
肺気腫 2名  
心拡大 1名  
脂肪肝 4名  
肝血管腫 1名  
多発腎結石 4名  
馬蹄腎 1名

5) 内臓脂肪測定 (受検者 9 名)

内臓脂肪正常は 5 名、内臓脂肪蓄積型肥満は 4 名であった。

D. 考察

人間ドック健診の放射線診断検査の受診者においては上述のような異常が検出され、精査のための医療機関の受診や、生活改善に関する本人への適切なアドバイスを行うことができた。

従来指摘してきたように、胎芽症者にとっては、生活習慣病の罹患や加齢性変化が、今後の生活の質の維持において重要となっている。今回の健診でもこれらに該当する異常が散見された。

サリドマイド胎芽症に合併する異常のみならず、加齢に伴う異常を早期に検出し、適切に対処するために、人間ドック健診の継続が有用であると考えられた。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

いずれも該当なし